7　研修生のページ

卒業に向けて一言

育成調教技術者養成研修　第 24 期修了者

多くの皆様からのご指導、ご支援をいただきました第 24 期の研修生 18 名が本年 4 月に修了し全国に旅立っていきました。今後の活躍を願いますとともに、引き続き皆様からのご指導をよろしくお願いいたします。

今号では 1 年間の研修で、研修生それぞれに与えられた役割と係について振り返りながら研修内容の一端を紹介させていただきます。研修修了者たちには就労後はさらに仕事への責任と役割を感じていただきたいものです。

寮長　朝日　清隆

私達は、軽種馬育成調教センターの育成技術者研修を昨年 4 月から受講し、今年 4 月 13 日に修了した 24 期生です。その中で私は最年長ということもあって、寮長という責任重大な役を務めさせていただきましたが、それは予想よりも遥かに困難な仕事だったと今振り返って思います。

馬の世界に少しですが携わっていた者と自分のように全くの未経験者との違いや、下は 15 歳から上は 25 歳という年齢差とそれによる考え方の違いなど全く異なる環境で暮らしてきた人間がまとまるというのは本当に大変な事でした。寮長という立場にありながら自分の研修の事で頭が一杯になってしまい、悩みを持っている人に気づいてあげられなかったこともありました。　そう考えると私は寮長として頼りがいのある存在にはなれなかったかなと反省しています。

しかし、24 期生のみんなはそのような私を全員でサポートしてくれました。何か問題や意見がでた時、誰からともなく全員で話し合おうと言う声がでてきていたのが、その良い例だと思います。

また、普段の寮生活の中でも自然と意見をぶつけ合い、この研修をいかに良いものにするかを常に考えているようなみんなでした。

初めての経験ばかりで体力的にも精神的にも大変な研修でしたが、ここまでみんなでこれたのも、こういう仲間達に恵まれたおかげだと思います。

また、教官方には技術ばかりではなく心の面での教育や、相談相手として本当にお世話になりました。

私達は、１年間の研修を終え、それぞれの道へ歩んでいくわけですが、この１年間の研修で学んだ事をしっかり自分のものにして、更に日々向上していけるよう努力していきたいと思います。

ケガ防止の準備体操

山歩きと山菜採集（行者ニンニク見つけた）

周辺の牧場での調教の見学

女子責任者　神川　貴子

馬の世界は男社会。女性の社会進出が当然の現状でも、まだまだ男性優位の職場は沢山残っているし、競馬の仕事なんて特にそうでしょう。一昨年の 11 月、入講試験を受けに来た受験生の中に、9 人も女子が含まれ、昨年の 4 月から 5 人が 24 期生として研修をスタートしたという事実は、異例といえるのではないでしょか。

そんな 24 期では、これまでの期には存在しなかった役職「女子責任者」が登場しました。なんだか、大層な名前ですが、言ってみれば決定事項を女子の間で伝達する連絡係です。気負う必要はないから、とはじめに言われた通り、誰かの責任をとらされる窮地はありませんでした。

というわけで初代女子責任者を努めさせていただいたのですが、ほとんどエピソードらしきものがみつからないくらい平和だった気がします。私個人の緊張した場面としては、実習期で寮長も副寮長も不在の時、掛けなければいけなくなった号令でしたが、しまりがないと判断されたのかその後はその場にいる最も番号の若い人が号令をかけるようになりました。緊張し易い私としてはホッとする流れです。

女子責任者としての私が、他の女の子達のために目に見える形で貢献できたことは残念ながら少なかったとは思いますが、私自身にとってこの役は意識改革を促すきっかけになってくれました。それは、誰かやらなければいけない、という状況で手を挙げられるようになったり、今まで以上に、自分がどう行動したら相手にどう作用するかを考えるようになったからです。

研修で 4 人の女の子達と生活をともにしてきて感じたことは、この子達は体の自由がきく限りこの世界で頑張るんだろうな、負けられないな、ということです。ガッツも粘り強さもタフさだって男の子に負けてないと思います。

全員が仲間でかつライバル。この気持ちで、24 期生がずっと馬に携わっていてほしいと願っています。

グラス坂路馬場を青空の下で騎乗

グラス馬場を悠然と騎乗

班長　三浦　雅啓

「朝日、神川、三浦、事務所までちょっと来てくれ。」と一日の研修が終了し、寮に帰ったある日の出来事だ。
「一体なんだろう・・・・・。」
私以外の二人は、どう思っていたのかわからないが、私は、不安を胸に事務所に向かった。そして、思いもよらぬ事を教官から言われた。「ＢＴＣニュースに原稿を書いて欲しい。三浦は、班長について書いてくれ。」あらぬ不安は、消し飛んだものの、これは、大役を仰せ付かったものだ。だが、ＢＴＣ研修生の生の声をお伝えするには絶好の機会だと思う。

また、「班長について」という限られたテーマですが、この場をお借りして簡単ではありますが、私の苦悩と合わせてご説明させていただきたいと思います。

まず、研修では、二つの班に研修生を分けられる。単純に第 1 班と第 2 班という分け方だ。私は第 2 班の班長をやらさせていただいた。1 班と 2 班も仕事内容はさほど大差はない。主に、夜飼時のチェック・日曜日を交替で作業するといったものだ。特に夜飼時のチェックに於いては、大変重要であり、何か異常があったならば、報告をする役目を私がする。その後は、常に日頃から馬を見ていなければならないのと、簡潔にどういう状態であるのかを教官方に説明をするという大役だ。実際、私の班では、数回疝痛になっていたという事があった。その時の対処等は今でもはっきりと覚えている。

だが、それ以上に大変だったのが、班をまとめるという事だ。上は 25 歳で下は 15 歳の男女の班だ。年齢層が幅広く、最年長の私が同期の研修生とはいえ、どのように接したら良いのか、最初は考えたものだ。しかし、そのような不安は、杞憂に終わった。月日が経つにつれ、お互いが見違えて成長していくのが分かった。それは、この素晴らしい環境下と、各々の仕事に対する意欲がそうさせたものだと思う。
この一年間の研修は、全員にとってかけがえのない財産だと思う。

馬具係　山本　真維

今回は馬具係について、文章を書く事になった 24 期生の馬具係です。文を書く事についてはかなりの苦手意識を持っているのですが、少し書いてみようと思います。

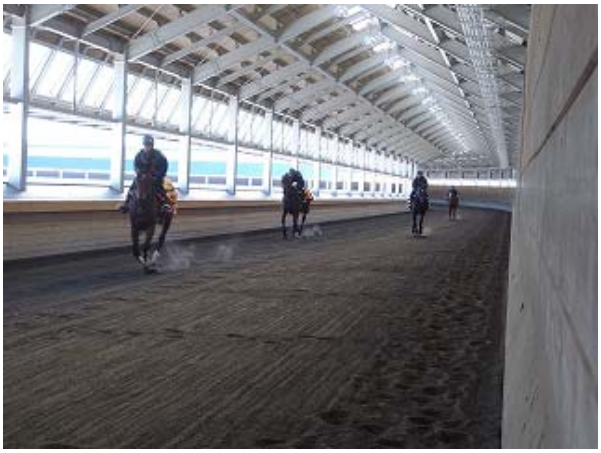
馬具係の仕事はというと、壊れた馬具を縫って直す、馬具をキレイにする等の細かい作業が多い感じになっています。また、いろんな意味で大切な仕事でもあります。なぜなら、馬具が壊れたまま使ってしまったら命に関わるからです。だから、いつも出来るだけ丁寧に直す様にしています。ちょっとした物なら自分でも修理が出来る様に、縫い方一つでも覚えておくと便利です。意外と力のいる作業なんですよ。といった所で仕事内容はだいたいこんな感じになっています。

ところで、馬具係にとってどの季節が一番大変か分かりますか？そう、「夏」です。何が厄介かって、湿気です。皮等で出来た馬具には大敵です。カビ地獄の始まりがやって来るのです。毎日、馬具を見てはため息ばかりが出る日々が続きます。様々な種類のカビ達が所狭しと場所取りをする馬具を拭く作業の連続で、正直言うともう嫌になってしまいました。きっと、来期の研修生も苦しむであろう、このカビ地獄は馬具係とは切っても切れない関係にあるのかもしれません。これからも、馬具を使っていく上で、もうカビには苦しみ

たくないものです。
　とにもかくにも、馬に乗る上で必要不可欠な馬具は安全のためにも日々の点検と手入れはしっかりしなくてはいけないなというのを身を持って知る事が出来る係なのです。

馴致実習

馴致実習



ＪＲＡ育成馬での騎乗実習

馬糧係　千坂　俊紀

　4月初旬、入講したばかりでそれぞれの係分担で自分に分担されたのは馬糧係でした。馬糧係といっても最初は何もわからなかったので初めは本当に教官頼みの状態でした。馬糧係というのは、馬糧の管理全般を受け持っていて馬糧の数量確認、馬糧ボードの書き換え、馬糧庫の清掃が主な仕事が主となっていて、一見してみれば楽な仕事と思われるかもしれませんが馬を管理する上で飼葉は欠かせない物なのでとても大変な仕事なのです。
　そして、7月には夏の大イベントである浦河競馬祭があり、ＢＴＣでも 2 頭を出場させたので、その際には馬糧係としては大きな関わりはありませんでしたが、油やにんにく味噌など今まであまり見た事もないものが出てきて、知識として増やす事が出来ました。競馬に出るという事で体調面はものすごく重要になってくるので実際の競馬でもそうですが飼葉を作るのにしてもミスをしてはいけないので競馬に関していた人達はものすごく気を使っていたと思います。
　夏が終わり秋から冬にかけては湿気によってペレットにカビが生えてダメになってしまったり、ねずみによって燕麦やふすまが食い荒らされて、多くの数量が捨てられ、無駄となってしまいました。やはり、任された係の仕事である以上はそれを全うしなければいけないと思うのでそれが出来ていなかったのはとても残念ですし、裏を返せばねずみも北海道の厳しい冬を生き残るために必死になっていたんだろうと思いました。
　そして、この 1 年間の研修の中で馬糧係という重要な仕事を担当して、失敗も多かったですが、得られる物もたくさんあり、とても良い経験ができましたし、今後も大切にしていきたいと思います。一番、係が大変だったのは最初 4 人だった係も研修が進むにつれ一人また一人と居なくなり、最終的に 2 人ですべての仕事をやらなければいけないということでした。

薬品係　本田　雄大

　薬品係の一番の仕事は、体温計の管理です。馬の体温を計ることはとても重要で、毎日の健康状態を知る上では必要不可欠なのです。毎日、使用するため、みんな意外と割ったり紛失したりします。それを新しく補充することも薬品係の仕事です。ただ、新しい体温計に紛失防止のためにクリップを紐で結んで付けるのですが、この作業が厄介なのです。意外と体温計に紐を結ぶのが難しく、誤って落とすとすぐに割れてしまい、一回も使用されることなくゴミに箱行きになるので、全ての作業が終わるまでは気が抜けず、緊張の連続です。これほどのプレッシャーの中で仕事をするのは薬品係だけだと思います。

　他の仕事は、馬の治療に使用する薬品全般の管理です。こちらも重要で、突然の怪我や病気の場合にでもすぐに対応できるように、薬品庫には治療に必要な薬品を常備しておかなければなりません。だから、定期的に常備薬品リストを見てチェックし、必要ならば補充していました。

　その中でも一番使用したのが、蹄又腐爛治療のために使ったスラッシュバスターです。この薬品は曲者で、皮膚に付くと紫色に染まってしまい、最低でも三日間はとれません。液体状なので濡れている場合が多く、整理しただけでも付くので、薬品係の手はどこかかしら紫色に染まっていました。

　あと、薬品に助けられたのは馬だけではありません。僕たち研修生もお世話になりました。その中でもダントツに人気なのは、動物用医薬品アンドレス軟膏という消炎剤です。少し匂いはきついが、これは良く効くと評判でした。僕たちの寮に常備されており、特に腰痛に悩まされている人達に愛用されていました。この薬品はお薦めなので、機会があれば是非使ってみてください。

　こうして一年間薬品係という仕事を通じて薬品を管理することの重要性を学びました。この知識や経験を牧場で勤めた際に生かしていけたらと思っています。

卒業記念の集合写真

美味しいはずだけど　馴れない食器に四苦八苦